

かぼくモイスチャークリーム

表示名称	配合目的	成分説明
水(ビーワン原水)	基剤	
オリーブ油	基剤・加脂剤	オリーブの果実から採取される淡黄色～淡緑黄色の油脂でわずかに特異なおいがある。オレイン酸が主成分で平均82.5%含有し、その他リノール酸、パルミチン酸を含有している。オレイン酸が主成分であるため良質の石けん原料として使用される他、皮膚に対してエモリエントな感触を与えるので、各種クリームやマッサージオイル、サンオイル、口紅などに広く用いられる。
セタノール	基剤・加脂剤	鯨ロウまたはマッコウ鯨油を加水分解して得たアルコールを分留する方法、ヤシ油または牛脂を還元後、分留する方法により得られる。白色の光沢あるロウ様の固体である。セタノールは化学構造上、末端に水酸基を有するために親水活性があり、クリームや乳液に配合すると、その安定性が非常に向上する。また、皮膚に対するエモリエント効果があり、クリームに光沢と白色を与える効果もある。口紅などのスティック状製品にも配合される。
ステアリン酸グリセリル	乳化剤	ステアリン酸のグリセリンモノエステルである。W/O型乳化剤としては界面活性剤中最も古くから用いられた。その他歯みがきの柔軟剤、石けん、シャンプーの過脂肪剤としても用いられる。モノステアリン酸グリセリンに石けん、あるいは非イオン界面活性剤を加えて親水性を増強したものがあり、これを自己乳化型モノステアリン酸グリセリンと呼び、広く乳化剤として用いられている。
ミツロウ	基剤・加脂剤	ヨーロッパミツバチやトウヨウミツバチなどのミツバチの巣から得たロウを精製したものがミツロウである。これを更に日光漂白法したものが、サラシミツロウである。ミツロウは成型しやすく、柔らかい感触を与えて融点を高め、他の油脂やロウ、着色料などを均質化し、分散する作用があるため口紅などに使用されやすい。
グリセリン	保湿剤	最も古くから用いられてきた保湿剤であり、非常に吸湿性が強く現在でも多くの化粧品に使われている。グリセリンは保湿剤として製品の硬さや粘度を長期間一定に保持させる目的で使用される。また、皮膚に対する柔軟剤として、製品ののび、滑りを良くする。吸湿性を有し、皮膚に対して潤いを与え、しっとりとした感触を与える。グリセリンとヒアルロン酸ナトリウムと一緒に組み合わせると保湿の相乗効果が高まり、薄い皮膚を作り、外気の乾燥に左右されることなく皮膚の潤いをしっかり守る。
エタノール	溶剤・防腐剤	わずかに特有の芳香と焼けつような味がある。無色透明な液体。化粧品には欠かすことのできない成分で、各種物質を溶解する性質があるので溶剤として多用される。また、清浄、殺菌、収れん、可溶化、乾燥促進などの目的でも配合される。

表示名称	配合目的	成分説明
ステアリン酸	基剤・加脂剤	主として牛脂、大豆油および綿実油を加水分解して得られる。ステアリン酸はクリーム成分として非常に重要な原料で、クリームのかき、硬さなどに影響を与える。各種クリームや乳液の油性原料、ファンデーションに用いられるほか、界面活性剤の原料としても重要である。
B G	保湿剤	アセトアルデヒドを合成して得られる無色、無臭の液体で僅かに甘味がある。適度の湿潤性と抗菌力があり、皮膚に対する刺激も少ないので、化粧品として有用である。グリセリンよりもさっぱりした使用感が保たれ、べたつきも少ないので、各種クリーム、乳液、エアゾール製品、歯みがきなどに保湿剤として、また香料の保留剤として広く使用される。
ヒマワリ油	基剤・加脂剤	ヒマワリの種子から得られる淡黄色～黄色の透明な液体の油脂である。生理活性の高い液体が多く酸化防止という面で注目される。他の植物油と同様にエモリエント効果があり、化粧品へはクリーム類の油性成分や、エモリエント剤として広く利用されている。またサンオイルなどにはベースオイルとして利用される。
メチルグルセス - 10	保湿剤	メチルグルコシドに酸化エチレンを付加重合したものである。無色から淡黄色の粘性液体で、殆ど無臭か僅かに特異臭がある。保湿効果、コンディショニング効果があり、シャンプー、リンス、ファンデーション、クリーム、化粧水などに使用される。
カボク抽出液	保湿剤	
トコフェロール	ビタミン剤	- トコフェロールを酢酸エステル化して得られる合成ビタミンEであり、通常ビタミンE効果を期待して化粧品や薬用化粧品に配合される。黄色の透明な粘性の液で、においは殆どない。皮膚に対して抹消血管拡張作用、血行促進作用があり、化粧品に配合すると、皮膚や頭皮の血行を盛んにすることによって肌荒れ、日焼けによるシミ、ソバカス、ニキビやフケ、脱毛を防止する。また、しもやけ、ひび、あかぎれなどの治療外用剤に配合されている。
ラウリン酸ポリグリセリル - 10	乳化剤	ラウリン酸とポリグリセリンとのモノエステル反応により得られる非イオン界面活性剤。
シクロメチコン	基剤・感触改良	環状シロキサンで、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサンがよく使用される。低分子量ジメチルシリコンも使用されるが、刺激が多少認められるために頻度は少ない。シリコンレンジ、シリコンゴムの溶剤として、また油性感のない各種化粧品をつくるための油相成分として多く使用される。

表示名称	配合目的	成分説明
酸化チタン	紫外線散乱剤	イルメナイト鉱を原料として、酸処理後、抽出などを行い化学処理をして製造される白色顔料である。皮膜力、着色力に優れ、紫外線遮断作用は微粒子かでより高くなり、サンスクリーン剤の主役である。皮膚に対し収斂性がなく、生理的に不活性である。酸化チタンは重要な原料として多用されているが、更に物性を向上させるために表面をケイ酸や酸化アルミニウムなどで処理したものが使用されている。白色顔料としてクリーム、乳液、メイクアップ製品に広く使用され、紫外線遮断剤として日焼け止めクリームに使用される。
カルボマー	増粘剤	水溶性高分子で、毒性及び眼粘膜、皮膚に対する刺激が殆どない。白色の粉末であり、水に分散して酸性を示す。これをアルカリで中和すると、透明な高粘度の溶液が得られる。天然ガム質と違い、増粘効果、品質の均一性、温度変化に対する粘度の安定性に優れ、皮膚上ではさらっとした感触が得られる。更に、微生物による汚染がされにくいことなどから、増粘剤として現在最も多く用いられている。
水酸化K	pH調整剤	白色の小球、薄片または塊で、硬くもろい。希薄溶液は皮膚表皮を軟化させる作用がある。脂肪酸と結合して石けんとなり、クリーム、乳液などの乳化剤として使用される。化粧水のアルカリ剤として、またカリ石けんなどに用いられる。
メチルパラベン	防腐剤	別名：パラオキシ安息香酸エステル。化粧品用の防腐剤としてはほとんどの商品群に使用されている。無色の結晶または白色の結晶性結晶性粉末で匂いはないが、またはわずかに匂いがある。パラオキシ安息香酸の抗菌作用は、その酸に比べて静菌作用が強く、非常に広範囲の微生物に有効である。サリチル酸や安息香酸に比べてはるかに毒性が低く、また皮膚刺激や過敏症なども少ないとされている。(パラベン単体での安全性は確認されているが、紫外線を浴びると皮膚細胞の老化を進める作用があるとの報告もある。)
ブチルパラベン	防腐剤	別名：パラオキシ安息香酸エステル。化粧品用の防腐剤としてはほとんどの商品群に使用されている。無色の結晶または白色の結晶性結晶性粉末で匂いはないが、またはわずかに匂いがある。パラオキシ安息香酸の抗菌作用は、その酸に比べて静菌作用が強く、非常に広範囲の微生物に有効である。サリチル酸や安息香酸に比べてはるかに毒性が低く、また皮膚刺激や過敏症なども少ないとされている。(パラベン単体での安全性は確認されているが、紫外線を浴びると皮膚細胞の老化を進める作用があるとの報告もある。)